



九州・山口（西部）における平成19年度（1/四半期）鋼製船舶造船実績

～ 昨年度並の手持ち工事量を確保 ～

平成19年 9月13日

【問い合わせ先】

九州運輸局

（担当：海事振興部船舶産業課）

電話 092-472-3158 山村・麻生・井上

○建造量 平成19年度1/四半期における建造量（竣工ベース）は、総トン数では対前年度同期比14.3%減の1,029千総トンとなった。

主な船種別では、貨物船では、その他（コンテナ船）が増加したが、ばら積み貨物船が減少し対前年度比32.2%減の534千総トン、油槽船は、一般油槽船が増加して対前年度比19.5%増の491千総トンとなった。

○受注量 平成19年度1/四半期における受注量（契約ベース）は、対前年度同期比43.1%減の991千総トンとなった。前年度を下回ったのは、日本の船台が2～3年空いていないため中国等の新興国造船所に早期納期の受注が集中したものと見られるが、数値的には高い位置を維持しており、依然としてBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）諸国の貿易が活発で、海運需要は引き続き高まっていることが高水準の主因と考えられる。

主な船種別では、貨物船は、自動車運搬船の大型船の受注の影響で増加したが、ばら積み貨物船が大幅に減少し対前年度同期比53.2%減の692千総トン、油槽船は、石油製品運搬船が増加して対前年度比13.6%増の298千総トンとなった。

○手持工事量 平成19年6月末における手持工事量は、対前年同月比5.8%増の12,990千総トンとなった。

主な船種別では、貨物船は、隻数では前年同月を上回ったが、総トン数では対前年同月比0.3%減の7,894千総トン、油槽船は、化学製品運搬船、LPG船、LNG船の増加により対前年同月比16.9%増の5,094千総トンとなった。